

パネルディスカッション「放射線治療の適応」

司会：武田 篤也 先生（大船中央病院放射線治療センター）

木村 智樹 先生（広島大学病院放射線治療科）

【司会の言葉】

肝細胞癌に対する放射線治療、特に体幹部定位放射線治療は、9割を超える高い局所制御成績が複数報告されています。また、穿刺治療を行いにくいドーム直下、脈管近傍、肝門部病巣に対する治療も容易であり、外来通院治療も可能なほど患者に優しい治療です。そのため切除術、RFAなどの穿刺治療が適応外となる場合に、放射線治療が救いの治療法となるかもしれません。私たちは、その特異な治療特性が活かされ、放射線治療が肝細胞治療の一翼を担うと信じています。しかし、肝臓内科医、外科医ばかりか、放射線治療医でも経験が乏しいために治療をためらわれることもあるかもしれません。本パネルディスカッションでは、放射線治療の特性、利点を参加者皆さんと討議し、共有する場としたいと思います。是非演題応募のほどよろしく申し上げます。